

令和7年度学校保健統計調査結果（高知県分）【概要】

1 発育状態

男女ともに身長・体重は横ばい傾向にあり、全国もほぼ同様の傾向となっている。

○身長

- ・男子は全年齢で全国平均を下回り、特に14歳(164.9cm)でその差が1.2cmと、最も大きい。
- ・女子は6歳を除く年齢で全国平均を下回り、特に14歳(155.0cm)でその差が1.4cmと、最も大きい。

○体重

- ・男子は8、11、15～17歳で全国平均を上回り、特に16歳(61.2kg)と17歳(63.1kg)でその差が0.9kgと、最も大きい。
- ・女子は8、10～13、15～17歳で全国平均を上回り、特に11歳(40.7kg)でその差が0.9kgと、最も大きい。

2 肥満傾向児の出現率

男女ともにはおおむね横ばい傾向にあり、全国もほぼ同様の傾向となっている。

- ・男子は6～11、13～17歳で全国平均を上回り、特に7歳(9.63%)でその差が3.19ポイントと、最も大きい。
- ・女子は8～17歳で全国平均を上回り、特に16歳(11.31%)でその差が4.51ポイントと、最も大きい。

3 健康状態

(1) 裸眼視力1.0未満の割合はおおむね横ばい傾向にあり、全国も同様の傾向

令和7年度は、小学校、高等学校で全国平均を下回っているが、割合は年齢が進むにつれて高くなっている。

(2) むし歯(う歯)の割合は減少傾向にあり、全国も同様の傾向

令和7年度は、全ての区分で全国平均を上回っている。

○主な疾病・異常の被患率別

- ・幼稚園、小学校
「むし歯(う歯)」(幼稚園28.8%、小学校36.4%)の割合が最も高く、次いで、「裸眼視力1.0未満」(幼稚園24.0%、小学校34.9%)の順となっている。
- ・中学校、高等学校
「裸眼視力1.0未満」(中学校59.4%、高等学校67.1%)の割合が最も高く、次いで「むし歯(う歯)」(中学校32.0%、高等学校32.9%)の順となっている。

○主な疾病・異常の被患率の対前年度比較

- ・「裸眼視力1.0未満」の割合は、高等学校で前年度を下回っている。
- ・「むし歯(う歯)」の割合は、小学校で前年度を下回っている。

○主な疾病・異常の被患率の対全国比較

- ・「裸眼視力1.0未満」の割合は、小学校、高等学校で全国を下回っている。
- ・「むし歯(う歯)」の割合は、全ての区分で全国を上回っている。

■県教育委員会のコメント

本県における児童生徒等の健康課題は全国とほぼ同様の傾向であり、肥満傾向やむし歯(う歯)、裸眼視力低下等が顕在化している。これらは社会環境の変化に伴う様々な要因が影響していると考えられる。

今後も、学校における健康教育に継続的に取り組むとともに、保護者や関係機関、健康部局と連携を図りながら、望ましい生活習慣・運動習慣の定着に取り組んでいく。(担当課：保健体育課)